

# RV pocket SS

## 取扱説明書

RV pocket SSを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。  
お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることが  
できるよう大切に保管してください。

### RV pocket SS の特長

#### ●姿勢保持機能付き

- ・調節スリングシートによる背座張り調節
- ・体幹サポートインナーパッドおよび座面  
前方ウェッジによるサポート調整

#### ●無段階ティルティング機構

#### ●座面奥行き・フットサポート高さ調整式

#### ●シートユニット

- ・全体にメッシュ生地を採用し、さらに背  
シートクッション材にも通気性に優れた  
立体編物フェュージョンを採用



### 目 次

- 安全にお使いいただくために ..... P1 · 2
- 各部の名称 ..... P3
- 製品構成 ..... P3
- オプション部品 ..... P3
- 使用前点検 ..... P3
- 各部の取り扱い ..... P4
- 開き防止ベルトの取り扱い ..... P5
- 調節スリングシートについて ..... P6
- インナーパッドについて ..... P6
- 折りたたみ方・開き方 ..... P7 · 8
- 車への積み降ろしなど ..... P8
- 前後足連結バー ..... P9
- お手入れ・メンテナンス ..... P9
- 車いすの取り扱い ..... P10
- 仕様 ..... P11

🚫 この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

## ●警告 (使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。)

🚫 本人を乗せたまま放置しないでください。

🚫 はずみをつけたり、つき放したりしての移動(走行)はしないでください。

🚫 フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。

🚫 ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたまでの使用はしないでください。

🚫 エスカレーターでの使用はしないでください。(一般的にも禁止されています。)

🚫 子供に操作させないでください。

🚫 坂道での駐車はしないでください。

(ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があり大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。)

🚫 座席や背もたれ、フットサポート等に立たせないでください。

🚫 本人を座らせたままで、抱えて移動しないでください。持つ位置によって各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたたんで介助者の手をはさむおそれがあり、そのような状態では安全に移動することが困難かつ危険です。

❗ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。  
(身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方者や取り扱い業者にご相談ください。)

❗ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。

🚫 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。

🚫 自動車の中では使用しないでください。

❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。

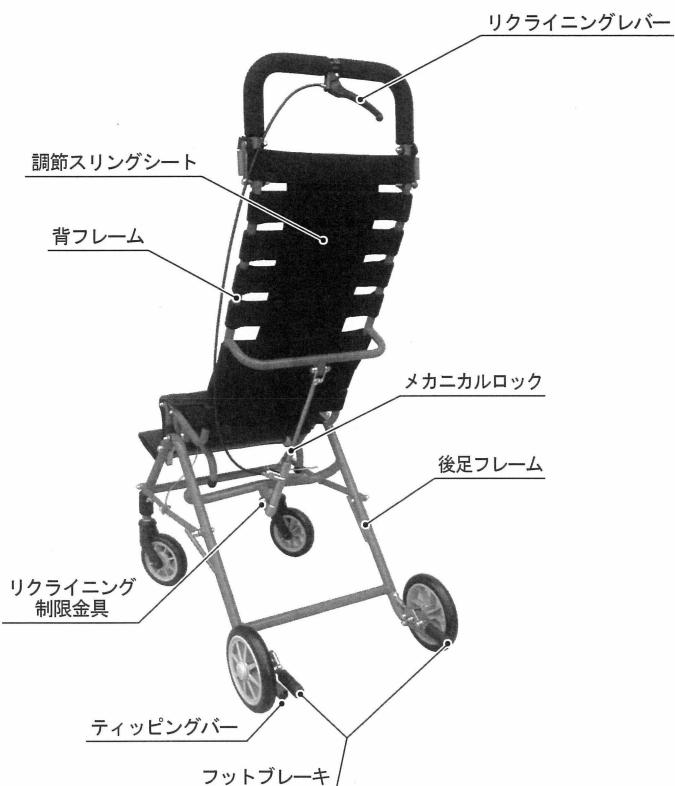
🚫 改造や分解はしないでください。

## ●注意 (使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が発生する可能性が想定される事項です。)

- ① 医師の処方で製作された場合
  - ⓧ 本人以外での使用はしないでください。  
(個人用に処方されたものとなりますので、安易に貸し出したりしないでください。)
  - ⓧ 処方目的以外での使用はしないでください。
- ② 段差越えの際のキャスター上げ操作は、ティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、ケガのおそれがあります。《くわしくは別紙ティッピング(前輪上げ)操作説明書をご覧ください。》
- ③ エスカレータの出入り口付近(特に手すり巻き取り部)、エレベータ、自動ドア等の付近で使用する際は、はさまれないよう注意してください。
- ④ 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- ⑤ 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が運動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- ⑥ 製品を持ち運ぶときは、折りたたんだ製品が不用意に開かないように、開き防止ベルトでしっかりと固定されていることを確認してください。(開き防止ベルトについては5ページを、持ち運びについては8ページを参照してください。)
- ⑦ 本人が座った状態でのリクライニング操作は、体重がかかり急に倒れことがありますので十分に注意してください。
- ⑧ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
  - ⓧ 折たたみおよび開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
  - ⓧ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
  - ⓧ 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
  - ⓧ 押し手グリップに重い物を引っ掛けないでください。(後方に倒れることがあります。)
  - ⓧ 子供を背もたれなどにぶらさがらせないでください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。そのような使い方はおこなわないでください。
  - ⓧ 子供の遊び道具として使用しないでください。
  - ⓧ 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
  - ⓧ 調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
  - ⓧ シートを外した状態での使用はしないでください。
  - ⓧ 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- ⑨ 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じことがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- ⑩ 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ⑪ リクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方者・医療機関・セラピストに相談確認の上、ご使用ください。
- ⑫ 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方者・医療機関・セラピストに相談確認の上、ご使用ください。
- ⑬ 定期的に処方者・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- ⑭ からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方者のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- ⑮ 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながることがあります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ⑯ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ⑰ 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカロック・ガスタンパーなどは特に水にぬらさないよう注意してください。
- ⑱ 水中の使用は絶対にしないでください。
- ⑲ 荷物等の運搬に使用しないでください。
- ⑳ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには(不要になったときには)取り扱い業者にご相談ください。

## 各部の名称



## 製品構成

		個数
●	基本フレーム	1
●	調節スリングシート（背・座）	1
	体幹サポート	左右1対
	インナーパッド	左右1対
	座面前方ウェッジ	1
	レッグサポート	1
●	シートユニット	1
	背シート	1
	座シート	1
	スカートガード	左右1対
	ヘッドサポート	1
	胸ベルト	1
	腰ベルト	1

## オプション部品

●	日除け

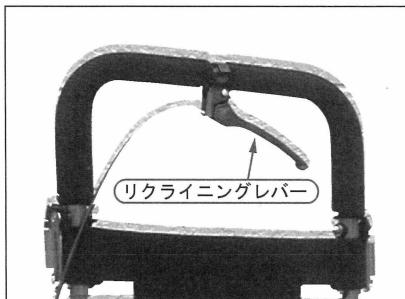
## 使用前点検

- ◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。
- ◎リクライニング機構がスムーズに作動することを確認してください。
- ◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。

## 各部の取り扱い

### ●リクライニングレバー

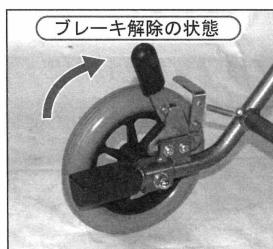
押し手グリップ中央にあるレバーを握るとロックが解除され自由な位置でティルトリクライニング角度を設定することができます。レバーをはなすとその角度で固定できます。



- ・リクライニングするときは必ず両手で操作をおこなってください。乗っている方の重さで急にリクライニングすることがあり、大変危険です。
- ・お子様には絶対に操作させないでください。
- ・リクライニングレバーのあそびが多くなってきたらワイヤーの張り調整をおこなってください。

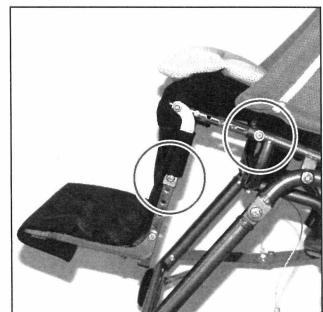
### ●ブレーキ

ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。



### ●座の奥行きとフットサポートの調整

ネジを差し換えることで、使用される方の大腿長と下腿長の長さにあわせて調節ができます。



### ●レッグサポート角度ストッパー

- ・レッグサポートの角度は、レッグサポート角度ストッパーによりほぼ90°に設定されます。このレッグサポート角度ストッパーをはずすと、座面奥行きを15mm短くすることができます。  
〔座面奥行きを最短に設定したときは、座面奥行き調節ボルトがレッグサポート角度ストッパーを兼ねます。〕
- ・座奥行きを最短設定から、成長対応などで伸ばすときには、レッグサポート角度ストッパーを当初の位置に取り付けることによりレッグサポートを同じ角度に設定できます。レッグサポート角度ストッパーは、なくさないよう大切に保管してください。

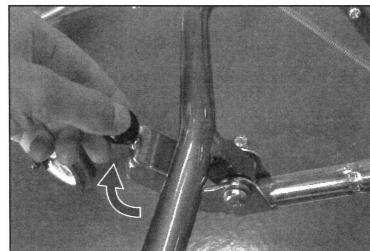


### ●リクライニング制限金具

- ・リクライニングを倒していくと、ある角度でリクライニング制限金具が働きリクライニングが止まります。折りたたみのときは、この金具を解除する必要があります。
- ・折りたたみの際は、写真のようにリクライニング制限金具を解除してから、リクライニングが止まるところまで倒してください。



・リクライニング制限がかかるている状態



・ノブボールを持ち上げて解除

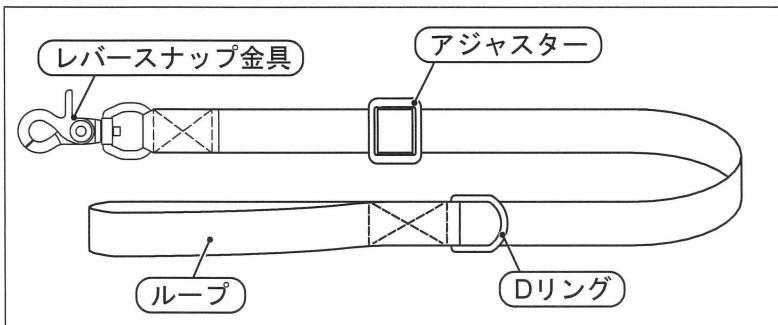


- ・折りたたんだ状態から開いてご使用になる際は、リクライニングを一度最大まで起こしてから倒してみて「リクライニング制限金具が効いた状態」になることを確認してください。  
(※折りたたみのときのようにリクライニング制限金具を操作する必要はありません)
- ・必ずリクライニング制限金具が効いていることを確かめてからご使用ください。
- ・お子様には絶対操作させないでください。

## 開き防止ベルトの取り扱いについて

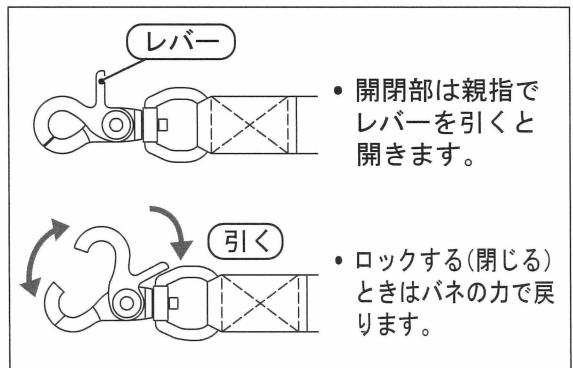
RV-SSを折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。

### ●開き防止ベルト・各部の名称



- 折りたたみ後、手順にしたがってフレームに巻き、レバースナップ金具をDリングにかけて使用します。
- レバースナップ金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。
- 折りたたんだときの厚みによっては、アジャスターでベルトの長さを調節してください。

### ●レバースナップ金具の取り扱い



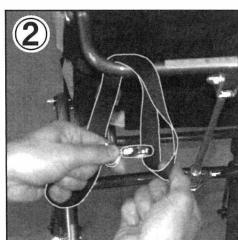
!  
レバースナップ金具の開閉部で指などをはさまないように注意してください。

### ●バギー本体への取り付け方法

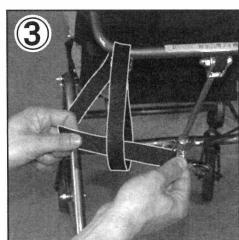
開き防止ベルトは、背フレーム後面の横パイプ(メカロックが付いているパイプ)に取り付けます。  
(出荷時はメカロックの左側に取り付けています)



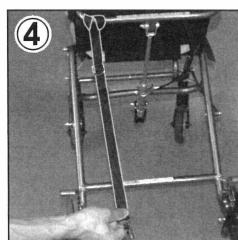
Dリングが正面になるように下方向よりループを背フレーム後面のパイプ内側から通します。



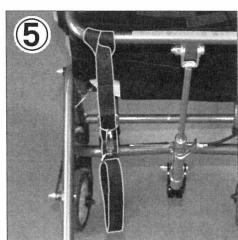
ループにレバースナップ金具をくぐらせてください。



ベルトがねじれないように注意して通してください。



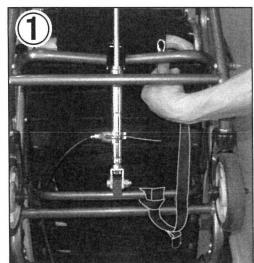
ループのところに余分なあまりやたわみがないようベルトをしっかりと引ききってください。



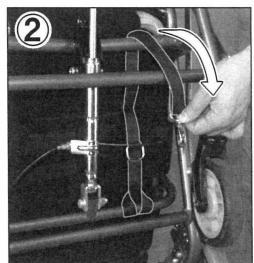
通常の使用(折りたたんだとき以外)では、ベルトがぶらつかないようにレバースナップ金具をDリングにかけてください。

!  
・搭乗者が開き防止ベルトに手指をからませたり、周辺の人や物にひつかからないように注意してください。  
・メンテナンスやシートの洗濯などにより開き防止ベルトを取り外したときは、必ず取り付け方法の説明にそって取り付け直してください。取り付けたら、折りたたみ操作をおこないレバースナップ金具がDリングにかかることを確認してください。

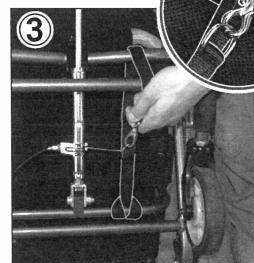
### ●開き防止ベルトの使用方法



折りたたんだら写真のように開き防止ベルトを座面下のパイプ(メカロックの取り付けてあるパイプ)の内側へ通します。



ベルトを座面下のパイプから前足フレームのパイプをおさえるようにして巻いてレバースナップ金具をDリングにかけてください。

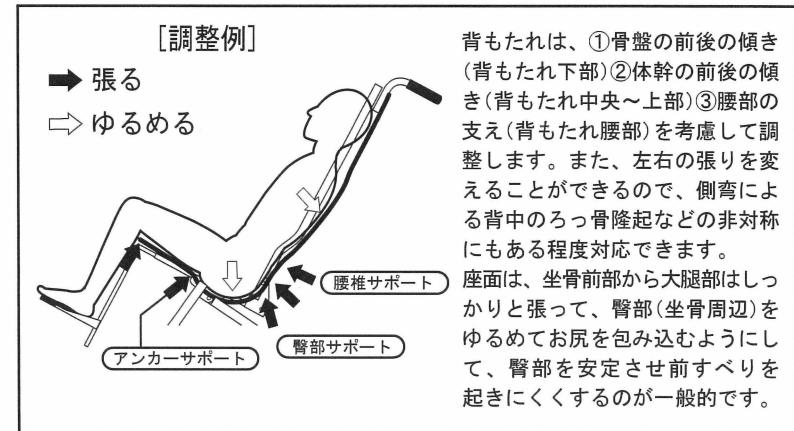


バギーを持ち上げる前にレバースナップ金具の開閉部が閉じていて、Dリングに確実にかかっていることを確認してください。

!  
・持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトを正しくとめて、レバースナップ金具の開閉部が閉じていることを確認してください。  
・開き防止ベルトをとめていなかつたり、とめ方が不適切な状態(ベルトの通し方に誤りがある、レバースナップ金具の開閉部が閉じていないなど)では、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくとめてください。  
・ベルトおよびレバースナップ金具の損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。  
・ベルトが傷んだままで使用した場合、誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。車への積み降ろしなど、抱え上げるときは8ページの説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。

## 調節スリングシートについて

帯状のスリングベルト(マジック式)の張り加減を調整することで、使用者の方の身体特性に個別に対応することができます。矢状面に加え水平面での調整もすることが可能です。



背もたれは、①骨盤の前後の傾き(背もたれ下部)②体幹の前後の傾き(背もたれ中央～上部)③腰部の支え(背もたれ腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部(坐骨周辺)をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起きにくくするのが一般的です。



長期間使用するうちにスリングシートの伸びが生じることがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

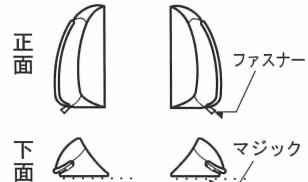
## 体幹サポートインナーパッドの取り扱いについて

調節スリングシートの張り具合で、骨盤が前方に滑り出しにくくなるように、また体幹部を背もたれに預けていられるように矢状面のサポートを調節します。調節スリングシートの水平面でのカーブの形状により、側方からのサポートがある程度得られますが、側方からのサポートを追加する目的で体幹サポートインナーパッドを用います。

体幹サポートインナーパッドは、右記のように4個セットになっています。調節スリングシートにインナーパッドを取り付けて、その上から背シートを取り付けて使用します。

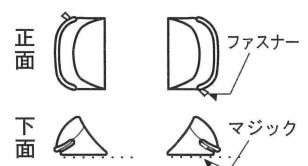
### 体幹パッド(2個)

- ・左、右別
- ・ファスナーがついている方が外側、先端が細い方が上側です。
- ・マジック面がスリングシート側です。



### 骨盤パッド(2個)

- ・左、右共通
- ・ファスナーがついている方が外側です。
- ・マジック面がスリングシート側です。

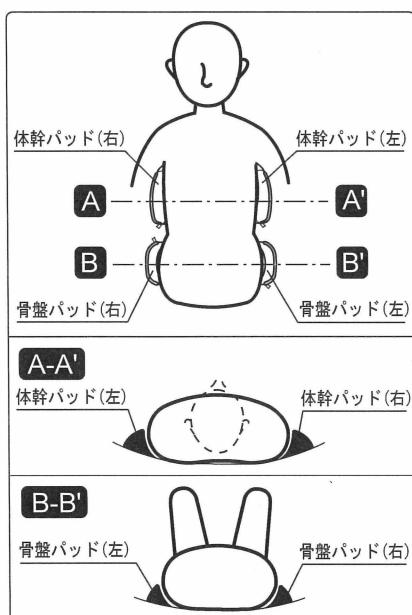


①

調節スリングシートの張り調節を先におこないます。

②

体幹パッド、骨盤パッドを本人の状況・体型に合わせて、またサポートの方向に配慮して調節スリングシートに取り付けます。



### 【体幹パッド】

○側弯などの影響で一方向に体が傾く場合には、取り付け位置・高さが左右非対称になることもあります。

○ろっ骨下部から胸郭の重みを受け止めるように体幹部の側方をサポートし、体幹部の横倒れや水平面方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと胸郭とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

### 【骨盤パッド】

○骨盤部の中央あたりの高さで、骨盤の傾きなどにも注意して、骨盤部からの横倒れや水平方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと骨盤部とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

③

必要に応じてインナーパッドの形状を変更調節します。

○パッドはファスナー式になっています。必要に応じ、中のクッションを取り出し、クッションを削るなどして形状の調整をしてください。

## 折りたたみ方



- ・折りたたみおよび開き操作のときは各部が運動して動きます。指などをさまないよう注意して操作をおこなってください。
- ・周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
- ・傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- ・折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

1



フットブレーキをかけてください。

2



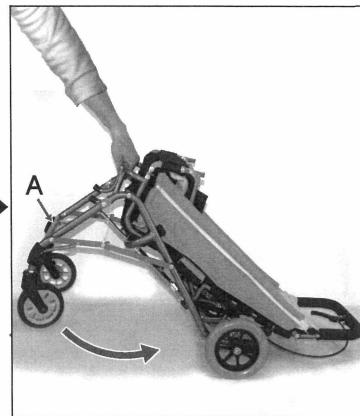
レッグサポートを座面にかぶせる様に折りたたんで、リクライニングを倒していきます。

3



リクライニング制限金具を解除して(4ページ参照)、止まるところまでリクライニングを倒しきってください。

4



座面下のパイプを握って持ち上げ、Aのパイプを握って前足フレームを折り込んでください。



手ばさみ注意！



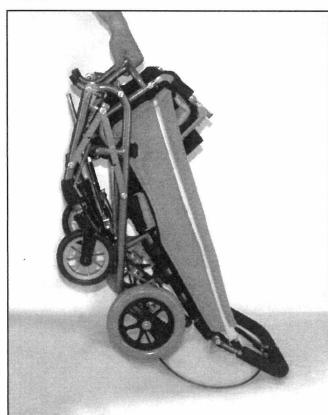
手ばさみ注意！



手ばさみ注意！

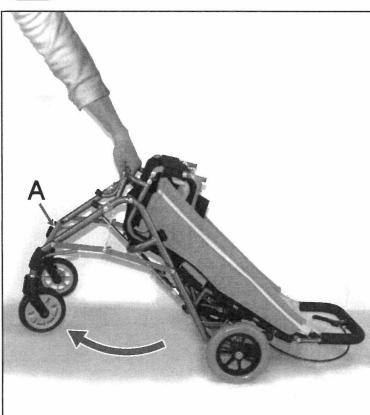
## 開き方

1



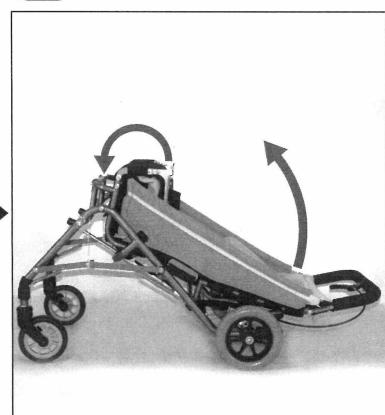
座面下のパイプを握って、写真のように持ち上げてから開き防止ベルトを外してください。

2



後輪を地面に接地させてから、Aのパイプを握って前足フレームを持ち上げ、最大まで開いた状態で前輪を地面につけてください。

3



リクライニングレバーを握り、リクライニングを適当な角度にセットし、レッグサポートを開いてください。

4



リクライニングを一度最大まで起こしてから倒してみて「リクライニング制限金具が効いた状態」になることを確認してください。適切なティルト角に設定してご使用ください。



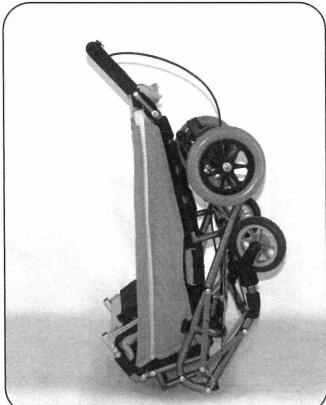
押し手グリップが地面に近くなるため、こすれなどに注意してください。



手ばさみ注意！



手ばさみ注意！



・持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトをしっかりととめて、レバースナップ金具がDリングに確実にかかっていることを確認してください。

・開き防止ベルトのとめ方が不適切なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ・周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。

・開き防止ベルトの取り扱いについては、5ページを参照してください。



開き防止ベルトを確実にとめてから、座面下のパイプを握って持ち運んでください。

この向きにすると自立することができます。

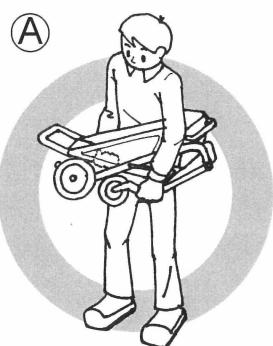
① 車への積み降ろしにおいては、下欄の手順に従ってください。

① 人やものがふれると倒れることがありますので注意してください。

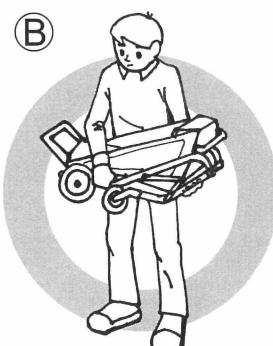
## 車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意

●自動車のトランク(荷室)に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。

図ⒶまたはⒷのように、背フレームと前足フレームが開かないように片方の手で前足フレーム、もう片方の手で背フレームをつかんでください。バギー全体を下からかかえるように持ち上げてください。

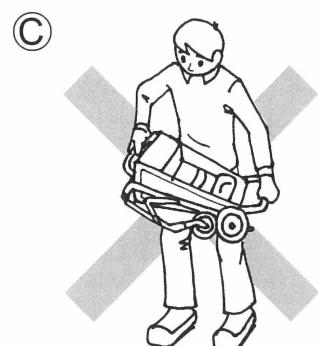


左手は前足フレームを右手は背フレームの左側を持っている。



左手は前足フレームを右手は背フレームの右側を持っている。

図Ⓒのように、前足以外のところをつかんで持ち上げた場合は、ベルトのみで前足の重さを受けることになるため、開き防止ベルトのとめ方が不十分だと急に開くおそれがあり危険です。



押し手と座面下のパイプをつかんでいる。(前足フレームを持っていない。)

① 持ち運びをする前に、開き防止ベルトが確実に正しく装着されていることを確認してください。(詳しくは5ページを参照してください。)

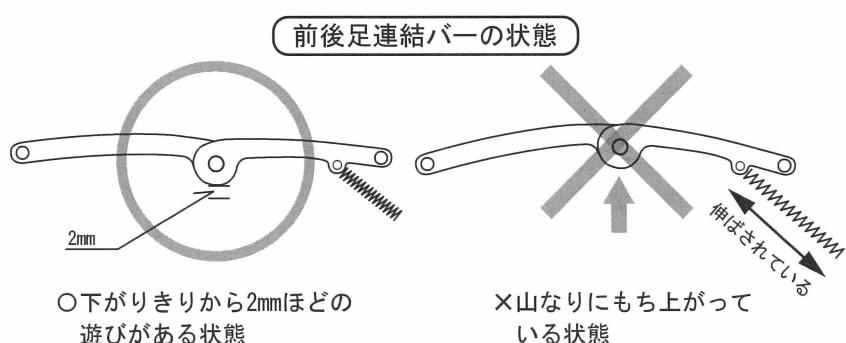
② 持ち運びの際は、前後足連結バーなどその付近は持たないでください。手や指をはさむおそれがあり大変危険です。

## 前後足連結バー引っ張りバネについて

本製品は、使用(走行)中に、下フレーム(前・後足フレーム)が折りたたまないように、前後足連結バーをバネで引く構造になっています。

このバネは、安全のために重要な部品であるため、簡単に外れてしまわないよう、十分に注意して組み立てておりますが、使用期間中のバネそのものの変化や何かに引っかけてしまったなどにより、バネが伸びきっていたり、外れたり、または折れたりすることが考えられます。

使用前には、バネの状態(伸び過ぎや破損)とバネが外れていないことを確認してください。バネの破損などに気付いたときは、すぐに取り扱い業者にご連絡ください。



以下の5点について、点検してください。

□ 前後足の連結バーの中心が、ちゃんと下がりきっているか？

（前後足連結バーがしっかりとつっぱた状態になっていることを必ず確認してください。  
《前足、後足フレームを前後から押して連結バーの中心部が下がること。》  
中心部が上に持ち上がっていると、前後足フレームが折りたたんでしまうため大変危険です。）

□ バネは2本とも、きちんとついているか？

□ バネの取り付け部分が伸びて、はずれそうになっていないか？

□ バネが部分的に伸びきっていないか？

□ 前後足連結バーを指で持ち上げたとき、バネが下方向にしっかりと引っ張っているか？

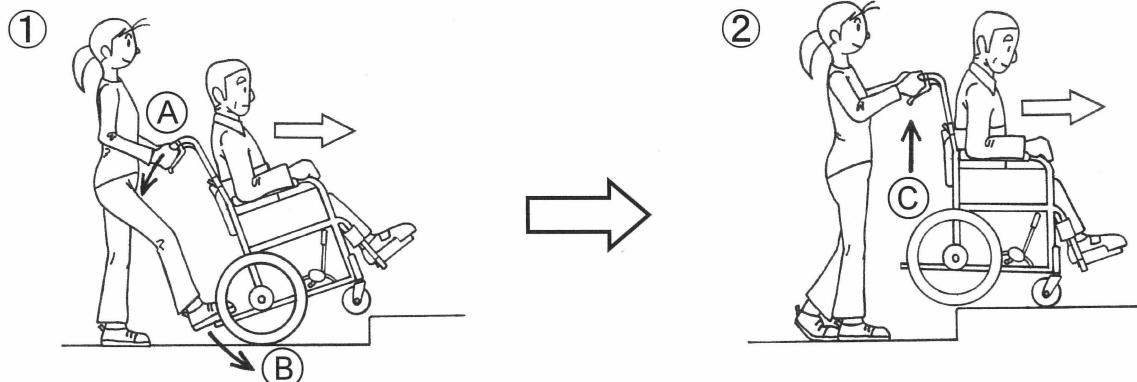
！ 前後足連結バーを持ち上げるときは、中心より外側の部分を扱ってください。中心付近は指をはさむおそれがあります。

## お手入れ・メンテナンス

- フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布地で拭きとってください。  
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることができます。  
※特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。
- 可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。  
※メカニカルロックやペアリングには注油しないでください。故障の原因になります。
- シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。
- インナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。  
ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。
- 調整や修理などはまず取り扱い業者にご相談ください。
- 保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

## 車いすの取り扱い

### ●段差越えの仕方



#### ①前輪が段差の直前にきたら

- A.両手で押し手グリップを手前にひきながら・・・
- B.ティッピングバーをななめ前方に踏み込むと前輪が上がるるのでこのまま前方に進み、前輪を段上にのせます。

#### ②そのまま進んで後輪が段差の直前にきたら

- C.押し手グリップを持ち上げて後輪を浮かせ、そのまま前方に進み後輪を段上にのせます。



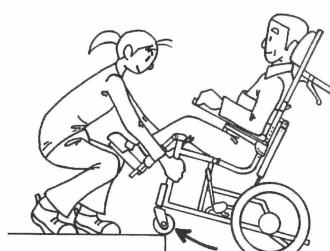
絶対に勢いをつけて乗り越えようとしないでください！  
(前方転倒や乗っている方の転落、車いすの破損などのおそれがあります。)

#### （）押し手グリップだけでの前輪上げは禁止！



ティッピングバーを利用せずに押し手だけの操作で無理に前輪を上げようすると車いすが破損するおそれがあります。  
必ず押し手とティッピングバーの両方を利用してください。

後方からの段差越え操作がむずかしい場合は車体前方を直接持ち上げる



リクライニング車などで後輪位置がより後方にある場合は、押し手とティッピングバーの操作での段差越えは困難な場合があり、無理をすると車いすが破損することがあります。  
そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。

### ●坂道での操作について

#### （登り方）



急な登り坂

#### （下り方）



急な下り坂

急な坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。登り坂は前向きで、下り坂は図の様に後ろ向きで進んでください。特に下るときに前向きに進むと、前方に転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあり大変危険です。



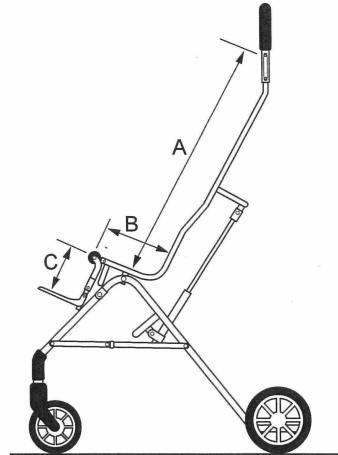
押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

## 仕様

※折りたたみ寸法 (W×D×H)

※基本重量=基本的なシートユニットを取り付けた場合の重量

座幅	mm	325
背高さ (A)	mm	620
座奥行き (B)	mm	170~245
足台高さ (C)	mm	120~170
折りたたみ寸法	mm	860×460×350
基本重量	kg	約9.3
ティルト角度	度	60°~23°
調節スリングシート		ナイロン100%
シートユニット		ポリエステル100%
対象年令		~4才位



取り扱い業者・連絡先